

プール熱

夏です。海だ！山だ！プールだ！ということで今日のテーマは「プール熱」です。

プール熱、正式名称は咽頭結膜炎。咽頭（のど）と結膜（目）に炎症（赤くなる）が起きる病気です。原因はアデノウイルス。感染力が強く咳やくしゃみによる飛沫、手や皮膚からの接触等で簡単に感染が広がります。一年中感染する可能性はありますが、夏場、プールでの水やタオルの使い回しにより集団発生することが多く、通称「プール熱」と呼ばれる由縁となっています。

感染から3～6日程度の潜伏期をへて、喉の痛みを伴った突然の高熱、目の充血といった症状が出現します。

プール熱（アデノウイルス）は、診断がついてもインフルエンザのような特別な治療薬は無く（ほとんどの風邪には特別な治療薬はありません）、熱が高ければ解熱剤を使う、目の充血には点眼薬を使うといった対処療法を行います。熱の期間は長く4～5日程度見られます。熱が4～5日続くということは、月曜に40℃の熱がでたら金曜まで出っぱなしとなり、「いつよくなるの？」と保護者様のご不安は強いかと思いますが、幸い、この感染症、熱は高くても経過中、比較的元気なことが多く、安静と水分摂取（これが一番の治療）、食べられる程度の食事摂取でほとんどの場合こじらせることなく1週間程度で完治します。病院でプール熱と診断されたら、「ちょっと長めの風邪」と思って安心して様子を見て頂いて大丈夫です。

あと、この病気は学校保険法に定められている疾患で診断がついたら、症状が消えて（解熱して、目が白く戻る）から2日経つまで学校（幼稚園、保育園）は出席停止となります。

安心して様子がみられる風邪といっても罹りたくはありません。ワクチンはありませんので主な予防手段は手洗いとなります。プールの前後ではよくシャワーを浴びるようにしましょう、タオルの使い回しはなしです。

ご家族様で感染者がでた場合には、手洗いの徹底、タオルや洗濯物を分けるといった配慮をお願いします。

ちなみに大人は罹ってもど風邪程度で終わることがほとんどです。